

## 9. 帯の着くずれについての一考察

昭和女子大 大竹 この

○佐成 郁子

1. きりりと形よく結ばれた帯、それは優雅な和服姿に一層の気品と爽やかさと美しさをそえる。しかし、活動性を要求される今日の社会生活においては、とかく折角結んだ帯がくずれて、無残な後姿を見かけることも多い。着くずれしにくい帯地を容易に選出することが出来るならば、この危険性も減じ和服の着装美にも役立つのではないかと考え、その一段階として帯の構成材料の摩擦係数及び柔軟性と着くずれとの関係について、二、三の実験を行なってみた。

2. 帯の着くずれの難易測定については、基礎実験として数種の帯側・帯芯を使用して帯の雛型を縫製し、モーターによって一定速度の回転運動及び屈曲運動を行なうようにした装置に結びつけ、空解けして落ちるまでの時間を測定し、その時間の長短と摩擦係数及び柔軟性の大小との関係を比較検討した。

3. 空解けし易いものは同時に着くずれがするということであり、概して帯側の摩擦係数の大きなものは空解けし難く摩擦係数の小さなものは空解けし易い。また、帯芯については柔軟性の大きなものは空解けし難く、柔軟性の小さいものの方が空解けし易い傾向が認められた。